

「スーパージュニア選手育成プログラム 2017」 ファイナルトライアル

平成30年1月13日(土)に、猫田記念体育館において今年度最後のプログラムとして、バレーボールの体験と運動適性テストを行いました。

まず午前、JTサンダースOBの5名の方にバレーボールの指導をして頂きました。

当日の広島市の最低気温は-3度と厳しい冷え込みで、体育館も暖房を入れて頂きましたが、初めは冷たい空気が張り詰めた中での準備体操から始まりました。柔軟体操とボールを使った鬼ごっこをして、空気も体も徐々に暖かくなったところで、早速パスの練習からスタートです。



オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの練習では、どの選手もボールを受けるのが上手く、小学生体育連盟の先生からも「さすがスーパージュニアだ」という声が出ていました。しかし、狙った方向にボールを返すとなると難易度が上がるため、苦戦している選手もいました。それでも、個別にアドバイスをもらったり、練習を繰り返したりしているうちに確実に上達していました。スパイク練習では、スパイクフォームやトスに見立てたボールをアタックのように返すことも行いました。



3

練習の後はお待ちかねのゲームです。男女で分かれて、それぞれ6~7人のチームを組み対戦しました。できるだけラリーが続くようにワンバウンドまではセーフとする特例ルールを適用。

一生懸命ボールを追いかけて相手コートへ返す姿が見られました。ときどき鋭いアタックが出ると大きな歓声が沸き、ブロックが決まるとチームメイトでハイタッチするなど盛り上がっていました。最後の体験競技となったバレーボールも楽しんで体験することができたようでした。



午後は、このプログラム最後の締めくくりとして、5月に行ったトライアルと同じ内容の運動適性テストを行いました。上体起こし、立ち幅跳び、長座体前屈、40m走、ソフトボール投げ、20mシャトルランの6種目を実施し、自分の記録を確認しました。今回の測定結果は、5月のトライアル時と比較できる形で各選手に返却されますので、届いたら自分の記録を確認して成長を感じてみてください。



最後に、全員に修了証とすべてのプログラムに参加した選手に皆勤賞が交付され、スーパージュニア選手育成プログラム2017は完結しました。

今年度は計7回のプログラムを通して9競技を体験することができました。色々な技術を習得しやすい「ゴールデンエイジ」と呼ばれる小学校高学年の時期に、多くのスポーツに触れることができたのは、選手の皆さんにとって貴重な経験になったと思います。これからも様々なスポーツ・体育のイベントに積極的に参加して、自分の特性を磨いていけることを期待します。

また、保護者の皆様には、毎回の引率、サポートプログラムへの出席など、御協力ありがとうございました。スポーツ選手の育成には、家庭でのサポートが欠かせません。このプログラムで得られたことを活かしていただき、子どもたちの成長をしっかり見守っていただきたいと思います。



最後になりましたが、今年度も広島県小学生体育連盟の先生方ならびに広島文教女子大学の学生の皆さんにご支援・ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

